

浜の活力再生プラン
(第2期)

組織名	串本地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長 吉田 俊久

1 地域水産業再生委員会

再生委員会の構成員	和歌山東漁業協同組合、串本町
オブザーバー	和歌山県漁業協同組合連合会、和歌山県東牟婁振興局農業水産振興課

対象となる地域の範囲及び	和歌山県東牟婁郡串本町
漁業の種類	イセエビ刺網漁業 126 経営体 採藻漁業 91 経営体 曳き縄漁業 194 経営体 一本釣り漁業 4 経営体

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

串本町は、紀伊半島西岸（枯木灘）から潮岬を経て東岸（熊野灘）まで、多様な沿岸海況がみられる。潮岬沖には黒潮が流れており、接岸時は沿岸付近まで強い東向流が流れ、沿岸水との潮目にはカツオなどの良好な漁場が形成される。また、沿岸部は良質な磯や瀬が多く、魚介類の種類も豊富で、イセエビ刺網漁業、採貝・採介藻漁業を中心に様々な漁業種類が営まれている。

一方、漁業者の高齢化と後継者不足による漁業者人口減少が著しく、漁業センサスによると、串本町の漁業就業者数は2008年（606人）から2018年（410人）と32%減少している。

また、2017年から始まった黒潮大蛇行の影響で、春季に黒潮北縁周辺に形成されるカツオ類の漁場が遠くなった。その為カツオ漁に出漁しない漁業者も増えた。カツオは2014年以降の低水準の漁獲が継続している。一方、沿岸域では、伊豆諸島域から暖水が流れ込み、高水温傾向が続いている。ヒジキをはじめとした藻類資源が平成30年頃から激減し、藻類を餌とする貝類も減少している。また、令和2年3月以降の、コロナウィルス新型肺炎の影響による地域への観光客の減少の影響により地域の観光業及び、観光と強い連携のある漁業種類で経済的な打撃が大きかった。このため、漁家経営は依然として厳しい状況である。

さらに、近年、イセエビ、アワビ、トコブシ等の密漁が横行し悪質化、組織化している。漁業法の改正による密漁厳罰化に伴い、漁業者も自ら取締や監視を強化し、不法、悪質な密漁を

阻止する体制を整える。

(2) その他の関連する現状等

串本町では串本町の東端の田原地区で、国内初の民間運営による小型ロケット発射場「スペースポート紀伊」の建設が進んでいる。また、紀伊半島に延伸している高速道路の串本～太地間も延伸している。これに伴い、域外との交流人口が飛躍的に多くなり、観光産業をはじめとした地域振興の好機となっている。

串本町が構成員となっている南紀黒潮広域水産業再生委員会において、東牟婁地域で漁獲されるイセエビを「南紀黒潮イセエビ」として商標登録し知名度の向上に取り組んでいる。また、和歌山東漁協においては、ふるさと納税者への返礼品として全国へ発送をおこなっている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--





(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①つきいそや藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p> <p>②岩盤清掃や漂着物の回収処理を行うことで、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ</p> <p>③漁獲状況に応じた地域ごとの資源管理方針の確立</p> <p>④密漁監視の強化</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上</p> <p>①観光業と連携した販売促進</p> <p>②漁業者が副業として新たな漁業や観光関連事業に着手</p> <p>3. 新規漁業就業者対策</p> <p>県や県漁連、(一社)全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>4. 経費削減</p> <p>①ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁のルールを遵守して効果的に活用し、燃油及び探索時間の削減を行う</p> <p>②漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減</p> <p>③再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減</p>

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>1. 操業隻数、期間等の規制遵守による資源へ与える負荷の制御 (海洋生物資源の保存及び管理に関する法律、和歌山県漁業調整規則)</p> <p>2. 和歌山東漁業協同組合における資源管理計画に基づく自主的資源管理措置の実施による資源保護と漁業経費の削減 (和歌山県資源管理協議会)</p> <p>3. 共同漁業権行使規則に基づく制限の徹底による資源保護 (和歌山東漁業協同組合)</p>

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (令和3年度) 漁業所得6%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①串本町は、有田、大島、西向地区に水産業強化支援事業を活用してつきいそを行い、資源の増大に努める。全漁業者は、地先ごとの実情に応じたイセエビの資源管理を行う。また、藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p>
--------------	--

	<p>②西向地区の漁業者は、岩盤清掃を行い、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ。全漁業者は、浜掃除や漂着物の回収処理を行うことで、沿岸環境を良好に保つと同時に、警察等と連携し、密漁監視を強化する。</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上 町及び漁業者は、高速道路の延伸やロケット産業関連の来訪者をターゲットとし、観光業と連携した商品の開発を検討する</p> <p>3. 新規漁業就業者対策 町及び漁業者は、県や県漁連、（一社）全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する 以上の取組により、1%程度の漁業収入向上を目指す</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>経費削減</p> <p>1 ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁を効果的に活用し、燃油及び探索時間の節減を行う</p> <p>2 全漁業者は、漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減を行う</p> <p>3 イセエビ刺網漁業者は、再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減</p> <p>以上の取組により、基準年比で9%の経費節減を目指す</p>
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（国・県・町）つきいそ

2年目（令和4年度）漁業所得7%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①串本町は、古座、串本、須江地区に水産業強化支援事業を活用してつきいそを行い、資源の増大に努める。全漁業者は、地先ごとの実情に応じたイセエビの資源管理を行う。また、藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p> <p>②西向地区の漁業者は、岩盤清掃を行い、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ。全漁業者は、浜掃除や漂着物の回収処理を行うことで、沿岸環境を良好に保つと同時に、警察等と連携し、密漁監視を強化する。</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上</p>
--------------	---

	<p>町及び漁業者は、高速道路の延伸やロケット産業関連の来訪者をターゲットとし、観光業と連携して開発した商品を販売する</p> <p>3. 新規漁業就業者対策</p> <p>町及び漁業者は、県や県漁連、（一社）全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、2%程度の漁業収入向上を目指す</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>経費削減</p> <p>1 ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁を効果的に活用し、燃油及び探索時間の節減を行う</p> <p>2 全漁業者は、漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減を行う</p> <p>3 イセエビ刺網漁業者は、再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減</p> <p>以上の取組により、基準年比で9%の経費節減を目指す</p>
活用する支援措置等	水産業強化支援事業（国・県・町）つきいそ

3年目（令和5年度）漁業所得9%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①串本町は、津荷、和深、出雲地区に水産業強化支援事業を活用してつきいそを行い、資源の増大に努める。橋杭、田並地区の漁業者は、令和元年に完成したつきいそで令和4年度に試験操業を行い、効果を算定したうえで漁を解禁し、適切な資源管理を行う。全漁業者は、地先ごとの実情に応じたイセエビ、ヒジキの資源管理を行う。また、藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p> <p>②西向地区の漁業者は、岩盤清掃を行い、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ。全漁業者は、浜掃除や漂着物の回収処理を行うことで、沿岸環境を良好に保つと同時に、警察等と連携し、密漁監視を強化する。</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上</p> <p>町及び漁業者は、高速道路の延伸やロケット産業関連の来訪者をターゲットとし、観光業と連携して開発した商品を販売する。</p> <p>漁業者は、ロケット観光クルーズ事業行い、本業と両立しての効果的な営業について継続検討を行う。</p>
--------------	--

	<p>3. 新規漁業就業者対策</p> <p>町及び漁業者は、県や県漁連、（一社）全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、4%程度の漁業収入向上を目指す</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>経費削減</p> <p>1 ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁を効果的に活用し、燃油及び探索時間の節減を行う</p> <p>2 全漁業者は、漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減を行う</p> <p>3 イセエビ刺網漁業者は、再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減</p> <p>以上の取組により、基準年比で9%の経費節減を目指す</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>水産業強化支援事業（国・県・町）つきいそ</p>

4年目（令和6年度）漁業所得11%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①潮岬、檜野、田原地区の漁業者は、令和2年に完成したつきいその漁を解禁し、適切な資源管理を行う。全漁業者は、地先ごとの実情に応じたイセエビ、ヒジキの資源管理を行う。また、藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p> <p>②西向地区の漁業者は、岩盤清掃を行い、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ。全漁業者は、浜掃除や漂着物の回収処理を行うことで、沿岸環境を良好に保つと同時に、警察等と連携し、密漁監視を強化する。</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上</p> <p>町及び漁業者は、高速道路の延伸やロケット産業関連の来訪者をターゲットとし、観光業と連携して地元販売量の増加、イベントによる販売促進、域外への販路拡大を行う。</p> <p>漁業者は、ロケット観光クルーズ事業に付随した収益向上の取組の可能性について検討する。</p> <p>3. 新規漁業就業者対策</p> <p>町及び漁業者は、県や県漁連、（一社）全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p>
---------------------	--

	以上の取組により、6%程度の漁業収入向上を目指す
漁業コスト削減のための取組	<p>経費削減</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁を効果的に活用し、燃油及び探索時間の節減を行う 2 全漁業者は、漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減を行う 3 イセエビ刺網漁業者は、再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減 <p>以上の取組により、基準年比で9%の経費節減を目指す</p>
活用する支援措置等	

5年目（令和7年度）漁業所得11%向上

漁業収入向上のための取組	<p>1. 資源管理の強化</p> <p>①有田、大島、西向地区の漁業者は、令和3年に完成予定のつきいその漁を解禁し、適切な資源管理を行う。全漁業者は、地先ごとの実情に応じたイセエビ、ヒジキの資源管理を行う。また、藻場造成により環境を整え、磯根資源を増加させる</p> <p>②西向地区の漁業者は、岩盤清掃を行い、ヒジキを中心とした有用藻類の生育環境を良好に保つ。全漁業者は、浜掃除や漂着物の回収処理を行うことで、沿岸環境を良好に保つと同時に、警察等と連携し、密漁監視を強化する。</p> <p>2. 観光との連携や複合経営による収益向上</p> <p>町及び漁業者は、高速道路の延伸やロケット産業関連の来訪者をターゲットとし、観光業と連携して地元販売量の増加、イベントによる販売促進、域外への販路拡大、新商品開発を行う。</p> <p>漁業者は、ロケット観光クルーズ事業に付随した収益向上の取組の可能性について引き続き検討する。</p> <p>3. 新規漁業就業者対策</p> <p>町及び漁業者は、県や県漁連、（一社）全国漁業就業育成センター、ハローワークと連携し、地域内外から新規就業者を獲得する</p> <p>以上の取組により、6%程度の漁業収入向上を目指す</p>
--------------	---

漁業コスト削減 のための取組	経費削減 1 ひき縄、一本釣漁業者は浮漁礁を効果的に活用し、燃油及び探索時間の節減を行う 2 全漁業者は、漁具、機器、設備等のメンテナンスによるコスト削減を行う 3 イセエビ刺網漁業者は、再放流場所の選定や漁場の共有化による漁業経費の削減 以上の取組により、基準年比で9%の経費節減を目指す
活用する支援措置等	

(5) 関係機関との連携

南紀黒潮水産業再生委員会、スペースポート紀伊、串本町水産振興会、南紀串本観光協会
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成26年度から平成30年度の5中3平均 : 漁業所得 千円
	目標年	令和7年度: 漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

漁業者が営業する観光メニューの創出（漁船クルーズの経営体数）	基準年	令和2年度: 0 件 (単位)
	目標年	令和7年度: 10 件 (単位)

新規漁業就業者数	基準年	令和元年度: 15 人 (単位)
----------	-----	------------------

	目標年	令和7年度： 16人（単位）
--	-----	----------------

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

【漁船クルーズ】経営体数

民間ロケット射場「スペースポート紀伊」が令和3年度に完成することにより、急激な増加が見込まれる、地域への観光客を目的とし、串本町では宿泊施設の拡充や道路建設等が進んでいる。現在、構想はあるものの、試行に時間がかかることが想定されることから、2期浜プラン期間中の目標年の漁船クルーズ経営体数を、10事業者とした。

新規漁業就業者数

地域の漁業就業者数の減少に歯止めをかけることを目標としている。一方、イセエビ漁獲量の平成27年以降の減少、ひき縄漁、採藻漁、ひき縄漁業者が副業的に営むサンマ棒受網及び火光利用棒受網漁、採貝漁等の極度な不漁による魚家経営の厳しさも考えると、急激な増加は現実的ではない。そのため、令和元年の新規漁業就業者数15名+1名を、各年度の年間目標とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産業強化支援事業	水産業強化支援事業を活用し、1期中に実施できなかった地域においてつきいそを設置し、イセエビ漁場の拡大を図り所得向上につなげる。 1年目（令和3年度） 有田・大島・西向地区 2年目（令和4年度） 古座・串本・須江地区 3年目（令和5年度） 津荷・和深・出雲地区